

輸出事業計画

住化農業資材（株）長野育苗センター、品目：ブドウ

1. 輸出における現状と課題

現状

- ・当該グループが生産を行う中野市は、長野県の北部に位置し、ブドウを中心にリンゴ、モモなど様々な果物の産地である。
- ・特に、「ブドウ」は冷涼な気候と少ない降水量、昼夜の寒暖差など内陸性の気候を活かし日本有数の産地に発展。

課題

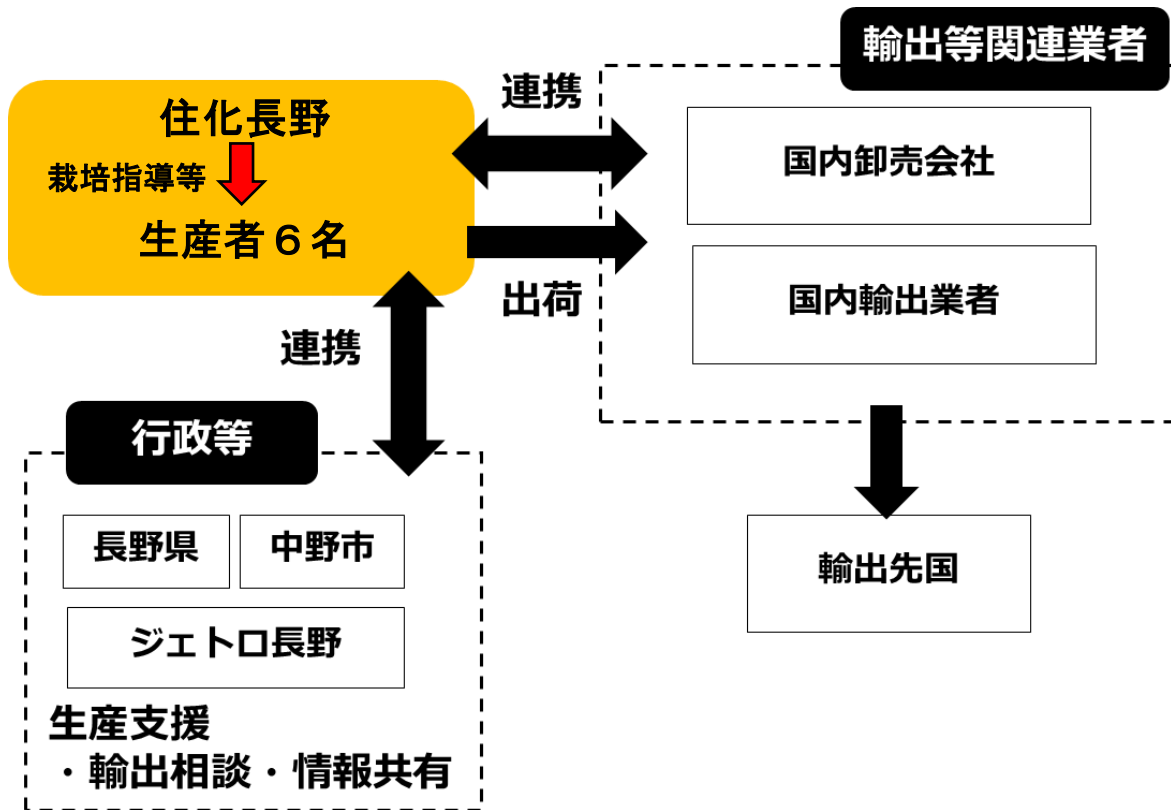
- 生産
生産量が少なく、規格にバラつきがみられる。
- 流通
国内流通とは異なり、輸出は収穫から店頭まで5～10日程度の時間を要する。輸出業者へ青果物を引き渡した後、輸出先国でどのくらい鮮度が保持できているかの実情を共有できていない。
- 販売
輸出先国の量販店や消費者の反応を確認できていない。

2. 輸出事業計画の取組内容

取組

- 生産
品質及び規格を揃えた商品を対象国実需者へ提案するため、栽培マニュアルの作成による栽培管理の統一化やバイオスティミュラント剤の活用により品質と規格の安定化を図る。
- 流通
輸出対象国までの輸送における商品ロスや現地での品質低下等を軽減するため鮮度保持資材によるテスト輸送を実施し、効果等を検討する。
- 販売
輸出先での販売状況や購買者の反応について、輸出事業者等を通じ、現地バイヤーにヒアリングを行う。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (令和 3 年度)	目標年 (令和 7 年度)
輸出額 (円)	530,000	2,000,000
輸出量 (t)	0.24	0.9
輸出先国	シンガポール マレーシア	シンガポール マレーシア カナダ